

令和7年度 神戸2025ビジョン推進会議 －議事要旨－

日 時：令和7年7月30日（水）15:00～17:00

場 所：神戸市役所1号館14階 大会議室

＜出席者＞

氏 名	役 職
（会長）品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
石川 路子	甲南大学 経済学部経済学科 教授
稻垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
小野 セレスタ 摩耶	同志社大学 社会学部社会福祉学科 准教授
佐合 純	iC株式会社 代表取締役
中野 みゆき	特定非営利活動法人Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
長谷川 孝之	連合神戸地域協議会 議長
服部 孝司	公益財団法人 神戸市民文化振興財団 理事長
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事

1. 開会

2. 議事

神戸 2025 ビジョン総括検証

＜事務局＞

－資料 2 に基づき説明－

＜委員＞

- ・神戸市の方針が、東京への人口流出対策や出生率の向上といった観点から、人口減少を受け入れたうえで施策を検討するという方向にシフトしていることが市民に伝わっていない。

＜事務局＞

- ・人口減少を受け入れながらの観点は重要。次期「基本計画」策定に向けたワークショップの中でも人口減少を受け止めて施策を展開していくということを説明しており、今後も周知を行っていきたい。

＜委員＞

- ・基本目標 2 で、数値目標の子育て・教育環境へのアンケート評価が B 評価となっている点について、アンケート結果を KPI や目標値として設定することは慎重に考える必要があると説明があった。しかし、施策で良いことをやっていたとしても市民に伝わっていないければ意味がないので、調査の仕方によって結果がぶれる可能性はあるが、市民がどう感じているかはしっかりと聞くべき。取り組みが悪いのではなく、広報が足りないという課題感はつかむことができるので、アンケート調査を目標に使わないという議論よりもなぜ伸びなかつたのかを分析するツールとして使うのが良い。数字が良かったから良いではなく、数字は数字として受け止めて、要因を分析し、深堀りする必要がある。
- ・基本目標 2 のアンケート調査は、対象が子育て世代ではない方も含まれているため、まず対象を明確にすることが課題。KPI を定めた当初のやり方を 5 年間続けてきたのだと思うが、計画期間中でも適宜見直してもよいと思う。
- ・今の子育て世代を対象としたいのか、他の世代も含めて全体の変化を見たいのか等、整理してターゲットを定めることが重要である。アンケートは主観的ではあるが、いろいろな価値観を持った人の意見が見えるため大事。実施する際にはターゲットの定め方ややり方を工夫する必要がある。
- ・アンケートを KPI ・ 数値目標として使うこと自体はいい。
- ・アンケートの数値が独り歩きすると怖いが、市民がどう感じているかを把握するには必要なツールであり、主観でないと図れないものもある。しかし、代表値として使うかどうかは慎重に考えなければならない。

- ・人口減少と国際化により、神戸の経済は大きく変化していくと思われる。社会が非常に速いスピードで変化しており、次の5年間ですら予測が難しい。次の計画では、こうした変化への対応をしっかり考える必要がある。
- ・全体としては非常にわかりやすいKPIの設定で進捗も良いと感じている。この5年間ではコロナなど先を憂う話は多かったが、それを乗り越えて前進できたことは非常に良かった。「突き抜けて達成したもの」と「ぎりぎりで達成したもの」の違いが見えにくいので、達成度合いの濃淡が分かるようになれば、市がどう取り組みを進めてきたのかのメッセージ性がより伝わるのではないか。
- ・神戸2025ビジョンではKPIの粒度に差があったため、次の計画では上位計画との連動をしっかり図りながら、KPIの立て方をしっかり考えていかなければならない。
- ・基本目標2では、数値目標がB評価となっていたが、身の回りの体感として明石市の子育ての政策の話がよく出てくる。神戸市の方針が伝わっていないことがこの評価に影響しているのではないかと思うので、しっかりとPRをしていく必要がある。

＜事務局＞

- ・明石市との比較はよく出るが、取り組み自体は見劣りしておらず、昨年、共働き子育てしやすい街ランキングで1位の評価もいただいたところ。取り組みが市民に周知されるように広報をどう頑張っていくのかが課題と捉えている。

＜委員＞

- ・基本目標3の「コウベ・インター・ナショナル・クラブ」について、KPIとして数を増やす理由や、その増加が神戸市の目指す目標とどう結びつくのかが分からぬ。また、国際都市として活用できる場面は多いはずだが、周囲ではあまり聞かないので、具体的な取り組み状況を知りたい。
- ・基本目標1の「営農組織の広域化・法人化」について、持続可能な農業や就農数増加、連携・協業など、どの目標と紐づいているのか分かりづらい。また、農家が組織拡大を望んでいるのかも不明なので、神戸市としての意図を知りたい。

＜事務局＞

- ・コウベ・インター・ナショナル・クラブは、神戸に留学した経験を持つ人が、帰国後に母国から神戸の魅力を発信するコミュニティである。神戸市は海外発信の重要性から、応援者や拠点国数の増加を目指して取り組んできたが、帰国した留学生の後継者づくりが難しく、現在は22拠点にとどまっている。また、最近は個人がSNSなどを通じて発信する傾向が強まり、人数把握が難しい状況にある。それでも、この取り組みは神戸の魅力発信という基本目標3にも合致していることから、拠点・会員の増加は今後も進めていきたい。
- ・「営農組織の広域化・法人化」については、現在、全国的に農業の担い手不足が

課題となっている。国は農地中間管理事業推進法に基づき、今後の農地利用や後継者の計画作成を求めており、営農組織の広域化・法人化を目標としたが、地域の組合では実現が難しい状況にある。市としては、広域化・法人化を進める組織に対し、農機具補助や融資などのインセンティブで支援しており、一次産業維持のため今後も推進していきたい。

＜委員＞

- ・神戸市は竹チップ機械の無料貸し出しなど、他地域から羨ましがられる施策があるにも関わらずKPIの結果がC評価だと非常にもったいない。子育ての分野と同様、数字だけで悪い印象を持つ人もいるため、「広域化・法人化」のような最終目標だけではなく、相談件数など途中段階の取り組み状況が分かる指標も必要。
- ・数値目標の設定は、遠すぎても近すぎても良くないし、必要なら途中で変更もできるが、何でも変えてしまうと報告書の体をなさないため、最初にしっかり考える必要がある。
- ・指標設定時の意図が5年後にも分かる形で残すことが重要。
- ・基本目標1の「高度人材、介護など資格職人材の在留資格外国人数」は、神戸国際高度人材サポートセンターを通して雇用された人数なのか、一般的な在留資格を持つ外国人全体の数なのか。感覚的としては卒業後に介護分野で働く留学生はもう少し多いように感じる。

＜事務局＞

- ・大学都市神戸産官学プラットフォームで実施している神戸外国人高度専門人材育成プロジェクトという取り組みを介した介護人材の人数を対象としている。

＜委員＞

- ・基本目標3について、KPIにB評価やC評価の事業が多いが、大切なのは達成できなかった理由を分析して目標に近づけていくこと。次の計画では、達成できなかった理由や改善策についてのコメントがあると、前向きに取り組む姿勢が確認できるので、その記載をお願いしたい。
- ・基本目標1について、スタートアップの設立数は結果を見るといい数値だが、経済成長の観点から考えると、役割を終えたように感じている。設立数だけではなく支援や立ち上がりのある地域だという次のステージを目標にしていけたらいいと思う。
- ・神戸の経済成長を何の指標を持って評価するのかについてはしっかり考えるべき。市内就職希望者数、DXお助け隊などKPIとしての設定が適切か不明な指標もあるため、最終的な経済成長につなげるには何が必要かそもそもその議論が必要。
- ・ストレッチ目標か現実的な目標かの整理が必要という指摘があったが、理論を組み立てて正確な指標をつける必要がある。

- ・リフレッシュステイの数など、一部の事業は、数字で図って意味があるのか疑問。数値で測るのが適切なものとそうでないものがあるため指標設定に工夫が必要。福祉分野では数値で評価できない課題が多く、また変化のスピードも速いためKPI自体が時代遅れになることもある。なぜ計画段階で指標に置いたのかを分かるようにしておくことが大事。
- ・基本目標5の数値目標「65歳以上の要支援・要介護認定率」のように、高める目標ではなく抑制すべき指標は、数値目標の数字が独り歩きして現場で不要な抑制バイアスがかからないようにしなければならない。元気な高齢者が増えるのと、要介護率が低いのはまた別軸の話なので、前向きな指標の置き方をすべき。次の計画では指標の置き方をしっかり検討してほしい。
- ・基本目標2の「生きる力と夢を育む教育の推進」では、コベカツの推進の記載があるが、最終目的が生徒と地域のつながりを深めて地域活性化につなげることだということが学校現場を含め市民にきちんと伝わっていない。地域の活性化という意味で基本目標7の項目に含めてPRしてもいいのでは。
- ・コベカツはみんなが自分の地域のことを考えるきっかけになる非常にいい材料なので、プラスに転じるようにぜひ周知をお願いしたい。
- ・社会情勢として孤立・孤独、地域のつながりが課題としてあるが、基本目標5と7でもそれぞれ孤独・孤立対策や地域コミュニティ活性化が挙げられている。今は別々に扱われているが、実際には密接に関連している。孤立・孤独は子どもから高齢者まで全世代共通の課題なので、指標も横断的に連携できる形が望ましいと考える。次の計画では、孤立・孤独対策と地域のつながりが一体的に見える仕組みにしてほしい。
- ・基本目標7では、「地域日本語教室の学習者数」と「企業への日本語教師の紹介件数」が掲げられているが、両者は性質が異なる。企業側は日本語力を伸ばすかどうかは個人の意欲の問題として捉えている側面がある一方、地域の語学学習場はボランティアが支えており、カリキュラムや習得レベルの管理には限界があるため線引きが必要。例えば企業に就労している外国人が地域の日本語教室に来る場合は、企業が有償で有資格者を派遣し、いつまでにどの程度のスキルがいるかというニーズを地域の日本語教室で拾ってカリキュラムを作るというやり方もある。今のKPIの設定の仕方は相反するものを一緒に求められているような違和感があるので見直す必要がある。
- ・関係者や企業、専門家の意見を聞き、両方を踏まえて指標を採用する必要がある。

3. 閉会

＜事務局＞

- ・本日議論やご指摘をいただき、数値目標やKPIについて十分議論し、且つそれが5年後の人間にも伝わる形で残すことが大事だと感じた。神戸2025ビジョンの総括にあたり、ご指摘をふまえ、設定した数値目標やKPIをどう市民に説明していくか

が求められていると認識している。

- ・同時進行で進めている次期計画には、本日いただいたご指摘を踏まえできる限り盛り込むような努力をしていきたい。